

鹿病防第49号
平成20年3月13日

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成19年度病害虫発生予察特殊報第6号について

キュウリとメロンにキュウリ/メロン退緑黄化病（仮称）の発生が認められ、特殊報第6号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（www.jpnpn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

お詫び：平成20年3月3日付けで発表した病害虫発生予察技術情報第14号（ナシ黒星病）はタイトルが誤っていましたので、以下のように訂正して下さるようお願いいたします。

病害虫発生予察技術情報第14号（ナシ黒星病）

→ 病害虫発生予察技術情報第15号（ナシ黒星病）

病害虫発生予察 特殊報第6号

平成20年3月13日
鹿児島県病害虫防除所

- 1 病害虫名** キュウリ退緑黄化病，メロン退緑黄化病（仮称）
- 2 病原ウイルス** ウリ類退緑黄化ウイルス *Cucurbit chlorotic yellows virus*;CCYV(仮称)
- 3 発生作物** キュウリ，メロン

4 発生確認の経過

発生確認年月日 平成20年2月14日

発生作物及び発生地 キュウリ（東串良町），メロン（出水市高尾野町）

発生確認の経緯

平成16年頃から九州各県でメロン，キュウリにこれまで知られていない葉の黄化症状が認められた。本症状は熊本県において，タバココナジラミバイオタイプQの接種で再現されることが確認されていたが，その発症機構は不明であった。そこで，平成18年に開始された共同試験（農林水産研究高度化事業）による発生原因究明試験が行われた結果，クロステロウイルス科クリニウイルス属の新規ウイルスが検出され，タバココナジラミが媒介するウイルス病であることが明らかにされた。

本県においても，平成18年に東串良町のキュウリで本症状に類似した黄化症状が多くのはほ場で認められていた。平成19年12月に東串良町と出水市のキュウリ，メロンで黄化症状のみられた葉を採集し，（独）九州沖縄農業研究センターで開発された手法により農業開発総合センターで検定した結果，本ウイルスが検出され，本病の発生が確認された。

※農林水産研究高度化事業：「果菜類における新規コナジラミ（バイオタイプQ）等防除技術の開発」（独）野菜茶業研究所（中核機関），（独）九州沖縄農業研究センター，熊本県，佐賀県，大分県及び宮崎県

5 病徴、伝染方法、感染植物等

(1) 主な感染植物での病徴及び被害

はじめ、葉に不鮮明な退緑小斑点が生じ、斑点が増加・癒合しながら黄化、拡大して斑状の黄化葉となる。症状が進展すると斑点状の緑色部分を残して葉の全面が黄化する。キュウリの場合は葉縁が下側に巻く症状が認められる。

メロンでは果実糖度及び果実重量の低下が、キュウリでは黄化による草勢低下が認められる。類似した症状を示すものに、メロン黄化葉症、オンシツコナジラミが媒介するメロン、キュウリ黄化病（病原ウイルスBPYV）がある。

(2) 伝染方法

現在のところ、タバココナジラミバイオタイプQが本ウイルスを半永続的に媒介することが確認されている。媒介するコナジラミの種類、タバココナジラミのバイオタイプ、媒介に関係するウイルスの特性、感染植物については試験中である。

なお、クリノウイルス属はコナジラミ類により半永続伝搬され、経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染、種子伝染はしないことが知られている。

※半永続媒介：ウイルス媒介能力が数時間～数日間持続する。

(3) 感染植物

これまでに感染が確認されている植物はメロン、キュウリ、スイカである。

6 防除対策

(1) 媒介昆虫であるタバココナジラミの施設内への侵入を防止するとともに、施設に侵入した個体を薬剤で防除する。特に、育苗期から生育初期の感染は経済的な被害につながるため、この時期の対策を重視する。薬剤の選択に当たっては、平成19年9月11日付け技術情報第9号を参考にする。

(2) 黄色粘着トラップを施設内に設置して媒介昆虫の早期発見に努める。

(3) 未発生地域ではウイルスの侵入を防止するため、発生地域から苗を購入する場合は、ウイルス対策を徹底している施設で育苗した苗を購入するなど注意する。

(4) ほ場周辺やほ場内の雑草は媒介昆虫の発生源となるので除草する。

(5) 施設栽培では、栽培終了時にハウスを密閉処理し、媒介昆虫が施設外に飛び出さないようにする。

(6) 発生ほ場で植替えを行う場合は、次の作での発生を防止するためにほ場内の除草とのハウスの密閉処理を徹底するとともに、定植時は必ず粒剤を施用する。

7 指導に当たっての注意事項

(1) 葉が黄化する症状は他の原因によるものも多いので、的確な診断のためには苗床や本ぼでのタバココナジラミの発生や栽培管理、前作や周囲の発生状況等を把握し、総合的に判断する必要がある。

(2) 未発生地域で疑わしい症状が出た場合は、最寄りの地域振興局農政普及課を通じて病虫害防除所へ連絡する。



写真1 メロン退緑黄化病（左：熊本県農業研究センター提供）及びキュウリ退緑黄化病（右）が発病した現地農家ほ場

写真2 メロン退緑黄化病の病徴（熊本県農業研究センター提供）



- 1：初期病徴（不整形の退緑小斑点）
 - 2：退緑小斑点が増加、黄化しながら癒合拡大
 - 3：葉脈および緑斑を残し黄化
- 1 → 2 → 3 の順に進展する



写真3 キュウリ退緑黄化病の病徴
葉脈を残して黄化し、下側に葉巻